

2022年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	総合演習Ⅰ「公共領域の経営と政策」
担当教員名	遠藤 哲哉、飯田 俊郎
科目のテーマ	本演習は、担当する2名の担当教員の専門分野から、現代的及び理論的課題を設定し、アプローチしていくので、履修希望者は、それぞれについて準備すること。 (1)「地方消滅と地方創生」 「若年女性人口の減少予測」を突破口として全国896の自治体の消滅を論じた増田レポートをきっかけに、日本の自治体行政は大きく転換した。 お試し移住の受け入れやCCRC（継続的なケア付きの高齢者コミュニティ）の整備、インバウンド誘致、子育てサービスの拡充、婚活イベントの開催、学校統廃合と特色ある高校づくり、ふるさと納税制度の活用など、国が推奨する地方創生の処方箋は増える一方である。 その一方、社会学の世界では、単一の人口データから地域社会の消滅を訴え、東京の若返りに協力するよう求める政治的な言論への疑問が募り、そもそも論を展開する姿勢が顕著になっている。この演習ではその議論を検討する。 (2)「公共経営における理論的課題」 公共領域の経営と政策における諸課題を、外国の理論的な文献を検討する中で検討する。特に、公共経営においては、そもそも公共とは何か？いかなる意味において公共であるのか？といった公共哲学におけるテーマが、まず検討されるべきである。また、経営理論を古典に即して理解することも重要であり、その点で、バーナードやホワイットヘッドの諸理論を改めて紐解き、公共領域における経営理論的接近を試みたい。近年、住民自治や地域づくりが、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・エンタープライズとの関係によって議論されることも多い。それは正に、自治と経営理論、さらに行政組織の変革を巡って検討されるテーマとなってきたことを示しており、我々は、住民自治や地域づくりを経営理論的視点から分析を試みたいと考えている。 その上で、都市政策及び地域政策の諸課題を整理することとしたい。NPO、非営利組織、ボランティア団体、社会的企業のインフラ構築、行政経営改革、及び行政と社会的企業等とのパートナーシップ等が、具体的な政策検討項目になりうる。この科目を通して、(1)の現代的課題に関連しつつ、そのような個別具体的政策課題にアプローチする理論的視点が改めて検討される。

科目 目 内 容 ・ 方 法 等	上記、(1)のサブテーマについては、下記のテキストを講読する(進度に応じてテキストを追加する)。毎回、分担者がレジュメを作成し、テキストの内容を要約するとともに、自説を展開する。 <テキスト> 金子勇、『コミュニティの創造的探究』、2011年、新曜社 増田寛也、『地方消滅・東京一極集中が招く人口急減』、2014年、中央公論新社、886円 山下祐介、『地方消滅の罟:「増田レポート」と人口減少社会の正体』、2014年、筑摩書房(ちくま新書)、972円 増田寛也・河合雅司、『地方消滅と東京老化 日本を再生する8つの提言』、2015年、ビジネス社、1,296円 山下祐介・金井利之、『地方創生の正体:なぜ地域政策は失敗するのか』、2015年、筑摩書房(ちくま新書)、972円 金子勇、『「地方創生と消滅」の社会学:日本のコミュニティのゆくえ』、2016年、ミネルヴァ書房、3,240円 上記(2)のサブテーマについては以下のようにするので、履修にあたり、準備を行なうこと。 以下の基本文献の内、学生と協議し1冊(一定部分)を読み、公的領域における経営、政策について検討する。下記の文献を吟味する中で、特にホワイトヘッドの諸概念さらに地域経営、公共組織の変革について、公共の意味を問いつつ、整理される。 ・Donald W. Sherburne 'A Key to Whitehead's Process and Reality,' Macmillan Publishing Co., Inc, 1966 ・Michael Barzelay 'Breaking through Bureaucracy,' University of California Press Berkeley, 1991. ・Chester I. Barnard, 'The Functions of the Executive,' Harvard University Press, 1938 (参考文献) ・『公益学を学ぶ人のために』世界思想社、2008。 ・村田晴夫『管理の哲学』文眞堂、1984。 ・山脇直司『公共哲学とは何か』ちくま新書、2004 ・矢吹雄平『地域マーケティング論』有斐閣、2010 ・木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社、2016 演習は、参加学生が毎回基本文献を、現代的課題について参考文献を参照しつつ読み解き、レポートを作成し、担当教官と議論するという方法で行われる。一定程度の英語読解力が求められる。 なお演習の実施については、遠隔授業などの方法や時間、曜日、場所について受講する院生諸君と協議する。
---------------------------------------	--

